

施策の方向性A「文化にかかわる環境づくり」

①芸術文化を鑑賞等できる機会の充実

事業名	実績・評価
<p>舞台鑑賞会 (能・狂言、上方芸能、歌舞伎)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能狂言 「こどもと楽しむ能狂言」R4.2.13 (2回) 大槻能楽堂：計408人(収容率50%で実施) 「初心者のための能狂言」R4.2.23 大槻能楽堂：計209人(収容率50%で実施)</li> <li>・上方芸能 「話芸の三きょうだい+1」R4.1.29 天満天神繁昌亭 90人(収容率50%で実施) 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」R4.3.19.20.21 計(集計中)人 「初心者のはじめの寄席 繁盛亭NIGHT」 R4.3.26 (集計中)人</li> <li>・歌舞伎 歌舞伎鑑賞会の参加者数：259人 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を断念する学校が多数。</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがはじめて伝統芸能に触れる機会を安価で提供できる本事業は、どのような子どもにも、芸術の豊かさを享受する権利があることを肯定し、さらには将来において芸術に関わったり応援したりするための芸術への理解を深めるために重要である。</li> <li>・コロナ禍の中で、感染防止に注意を払いながら開催できていたことは評価できる。歌舞伎のキャンセルについて残念であるが、引き続き事業の実施を望む。</li> <li>・体験コーナーについては、予定通り行えなかったものの、参加者にも伝わりやすい囃子方の解説もあり、伝統芸能の魅力を伝えることができた。またジェンダーギャップ解消し、どのような子どもも可能性があることを示すためにも、男性が多数を占める伝統芸能の解説の際に、女性の小鼓方の先生がお話しされており、女性も伝統芸能の担い手になれることを示していたもの良かった。</li> <li>・今後もノウハウを最大限活用し、より企画をブラッシュアップしていくことを望む。</li> </ul>
<p>舞台鑑賞会 (演劇)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめての京劇 孫悟空vs白骨精」 R4.2.5 阿倍野区民センター 大ホール R4.2.6 クレオ大阪東 ホール</li> <li>・来場者数合計：計440人</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察した際、終演後に中国語で会話をしながら帰路につく親子が確認され、これまで市の文化事業で対象となることが少ない層へのアプローチとなっていたのではないかと思われ、評価できる。事前のワークショップの参加者も定員を大きく上回り、ワークショップ参加者が公演に出演する機会となっていた点は、企画の枠組みとしては良くできていた。</li> <li>・一方、事業目的に掲げる「質の高い演劇鑑賞会」については、馴染みのないジャンルであることから「わかりやすさ」を意識されたものと想像するが、「上質」な公演を期待したい。上質な鑑賞体験が「今後、演劇を見に行きたい」と思わせる動機づけになるのではないだろうか。この点は、次の事業者選定の際に十分な配慮を求めたい。また、今回の公演内容により小学校を中心に広報したとのことであるが、新たな層の取り込みという点では、より広がりのある広報展開があってもよい。</li> <li>・事業目的の「芸術文化を支える人材、芸術文化を継承発展させる青少年の育成」という点では、大阪を拠点にする演劇人を起用する機会となることを願いたい。</li> </ul>

②芸術文化を将来へ継承発展させる子どもや青少年が成長する機会の充実

事業名	実績・評価
<p>中学生が参加する コンサート</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめましてオーケストラ」(R4.3.29 ザ・シンフォニーホール)</li> <li>・参加中学生数：466人(予定)</li> <li>・来場者数：1000人(予定)</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年に比べて希望者が増えたことは、長期化する新型コロナ感染拡大の下で様々な文化活動が制約されていることの反映とも見られる。できる限り希望が叶うように善処をお願いしたい。事前指導やシンフォニーホールでの公演が実現することで、音楽的素養を積み、思春期における豊かな感性を育てていくことが期待できる。</li> <li>・今後の文化創造の基盤づくり及び青少年育成を考慮して、コロナの影響が長期化した場合でも実施可能な訪問指導プログラムの開発を期待したい(飛沫・接触感染防止対策を講じた少人数のプログラム等)。その時々情報や知見を共有の上、オーケストラと学校とのコミュニケーションが図られ、本事業の実施が継続していくことを望みたい。</li> </ul>
<p>舞台鑑賞会 中高生のための文楽 夏休み親子ペア文楽</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文楽鑑賞教室」※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため校外活動休止となり中止(申込時点 1,331人※定員半数募集)</li> <li>・夏休み文楽特別公演「親子劇場」 R3.7月~8月 国立文楽劇場 参加者数：2,291人</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夏休み親子文楽」については例年を上回る応募があったとのことだが、新型コロナウイルス感染拡大の長期化で舞台公演や鑑賞教室が制約されてきた中で、鑑賞へのニーズが減ることなく、無事に実施されて2千人超が鑑賞できたことは何よりである。全小中学校にチラシ配布されたことなど、精力的に広報に努められたことも功を奏したのではないかと。引き続き、広報活動の工夫を期待したい。</li> <li>・文楽鑑賞教室について、校外活動への参加は現場の担当教諭の熱意によるところもある。中学校では鑑賞授業はおおむね音楽の授業の範囲であるとのことだが、古典や歴史の教材としても可能性があるため、今後アプローチの余地があるのではないかと。</li> <li>・まずは担当教諭が文楽を知り、鑑賞することで生徒を連れて行く動機づけにつながるため、先生向けの招待の実現や、引き続き研究会などの研修とうまく連携していけると良い。</li> </ul>

<p>こども本の森中之島 運営事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の運営にかかる満足度94%</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こども本の森は、施設建築と運営方法において全国レベルで先進的な図書館です。開館と同時期に新型コロナウイルス感染症拡大が重なり、管理運営の苦労は想定外続きであったであろう状況の中、感染症対策や来館予約システムの改善等の努力を重ね、入館者数が増加し、高い満足度を得ていることは評価できる。公立文化施設の利用促進の面から、今後も、感染症対策に十分留意しながら、リピーターはもとより新規の来館者も含め、多くの方々に利用しやすい施設となることを期待されるだろう。その際には、集客数よりもむしろ、満足度に重きを置いて運営されることをのぞむ。そのうえで以下の提案をしたい。</li> <li>国内外の子どもを対象とした図書館との連携に関する長期計画をもってはどうか。その足掛かりとしてこども本の森神戸とのノウハウ共有や人的交流が図られるとよいだろう。</li> <li>アフターコロナを見据えたアクセシビリティの向上に取り組んでどうか。現在のぬいぐるみを施設に宿泊させるなどは、外出が難しい子どもが自分の分身を外出させることで、コロナ禍で狭くなりがちな行動範囲と視野を、想像力を通して広げ、ストレスがたまりがちな気持ちをやわらげる効果があるだろう。今後は、障害があったり、情報が受け取りにくかったり、家庭の事情等があったとしても、ハンディなく子ども達が来館し、こども本の森が目指す「芸術文化の有する地域力向上や社会包摂の機能を活かした共生への取組み」を享受できるような工夫をするとよいだろう。</li> <li>施設運営が企業または個人からの寄附金で行われていることから、今後も安定的な施設運営を行うために寄附金の獲得に向けた方策を計画的に検討するとよいだろう。</li> </ul>
---------------------------	--

### ③芸術文化を支える市民意識の醸成

事業名	実績・評価
<p>芸術・文化団体 サポート事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度実施分 対象団体：22団体 寄付金額：8,415千円（R3.12月末まで）</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民の芸術への寄付文化を育む一方法として重要な事業である。これまでは事業立ち上げ期間であったが、コロナ禍において寄付額や件数が増えたことから、一定の認知度が得られたと考える。次の展開として、行政側の担当者がファンディングに関する専門知識を得る機会（研修等を受けるなど）をつくり寄附動向の分析などにより効果的な寄附金募集につながるパースペクティブを持つとよいだろう。</li> <li>NPO法人へのインタビューにおいて、コロナ禍においては事務所家賃が大きな負担となっている場合があった。本事業は運営費にも助成金を充当できるため、引き続き活用してもらえるように案内するとよい。</li> </ul>

## 施策の方向性B「文化が都市を変革する」

### ①芸術文化を創造する人材や支える人材の育成・支援

事業名	実績・評価
<p>芸術活動振興事業 助成金</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>申請件数 一般助成：上期123件／下期121件 特別助成：76件 合計：320件</li> <li>交付決定件数 一般助成：上期113件（うち中止10件）／下期96件（うち中止4件）（1末時点集計） 特別助成：27件（うち中止6件） 合計：236件（うち中止20件）</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バラエティに富む大阪の文化芸術活動が、個性を尊重されつつ活性化され、未来の都市文化を彩り豊かに産みだすために、大阪市のこの助成金は重要です。</li> <li>コロナ禍で活動が制限されざるを得なかった芸術家や団体により多く届くように、コロナ禍で補助額及び予算額拡充を実施し、中止事業に対してもキャンセル料を対象に支援を行うなどのきめ細やかな対応で支援したことは評価できる。</li> <li>アフターコロナに向けて、ICT活用を視野に入れたオンライン申請の実現も非常に評価できる。</li> <li>ウイズコロナ、アフターコロナにおいて変化しつつある芸術現場に対応するためにも新たに設置された相談窓口との連携も試みており今後の取り組みにも期待したい。</li> <li>次年度以降も、審査のみではなくアーツカウンシル視察を継続し、フィードバックを反映するような仕組みの継続が望ましい。また、多様なタイプの申請者や事業がある中で、ヒアリング調査等による現場の声を吸い上げた制度の整理や市の施策と関連した戦略的な制度設計を期待する。</li> </ul>

<p>咲くやこの花賞 咲くやこの花賞 受賞者等支援事業</p>	<p>【咲くやこの花賞受賞者等支援事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「咲くやこの花コレクション」：並井友仁の「演出」体験講座（R3.11.19～21芸術創造館ほか）ほか4プログラム</li> <li>・受賞者のインタビュー記事の発信：5回</li> </ul> <p>【咲くやこの花賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・贈呈式：R4.3.28 大阪市中央公会堂</li> <li>・受賞者：(美術部門：現代美術)谷原菜摘子 (音楽部門：アイドルグループ)なにわ男子 (演劇・舞踊部門：俳優)伊原六花 (大衆芸能部門：浪曲)真山隼人 (文芸その他部門：小説)吳 勝浩</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <p>・咲くやこの花賞は多彩な大阪市の文化芸術人材を顕彰することで、市民のシビックプライドを毎年更新する重要な事業です。ここに文化芸術における大阪市ブランドの一角が育まれている。そのことを示すためにも、40周年などの10年ごとに、受賞者を紹介する多言語の冊子等を発行するなど、計画的、戦略的に準備をすすめるとよいだろう。インターネットでのインタビュー紹介も貴重であるが、アフターコロナに万博も見据えて、世界各都市の文化芸術関係者の重鎮が来阪した際に、大阪の文化行政トップが、の豊かな文化芸術人材を紹介し、話題にするために、印刷物は役立つだろう。</p> <p>・上記のような咲くやこの花賞の、大阪における重要性をより広く市民に知らせるために、支援事業はある。基礎自治体として芸術文化人材が身近であることを示すために、現在の様な受賞者による公演やワークショップ、展示会等を行うことは良い。今年度においては、演出家による演劇ワークショップが芸術創造館で行われた。そこでは、演出家自身がこれまで取り組んでこなかったワークショップ事業となり、受講者の満足度も高かったという。単なる受賞者に紹介にならない、大阪市が企画に加わることで、会場と表現者のコラボレーションが可能となったことは評価したい。このように公演やワークショップといった従来の方法のほかに、新たな展開が起こってこそ、受賞者の存在が、大阪市の視点から高められ、市民にシビックプライドとしてうけとめられる。</p> <p>・今後も大阪市が誇る若手の文化芸術人材が、市民によりよい形で紹介されるよう、質の低下はあってはならない。大阪市の各芸術シーンで評価が高かったり、文化財指定があるような会場とのコラボレーションを具体的に進めるのもよいだろう。40周年に向けた周年イベントの準備があってもよい。</p>
<p>大阪文化賞 大阪文化祭賞</p>	<p>【大阪文化賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受賞者：四代 田辺竹雲齋（芸術・美術）</li> <li>・授賞式：R3.3.25 シティプラザ大阪</li> </ul> <p>【大阪文化祭賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受賞者 <ul style="list-style-type: none"> <li>【第1部門】上村吉弥：「関西・歌舞伎を愛する会 第29回七月大歌舞伎『双蝶々曲輪日記 引窓』」の成果</li> <li>【第2部門】菅我廻家文重、井上恵美子：「松竹新喜劇錦秋公演『お家はんと直どん』」の成果</li> <li>【第3部門】堺シティオペラ、大阪交響楽団：「il Teatro L'alba L'amore "オペラ×オーケストラ"歌劇『トゥーランドット』」の成果</li> </ul> </li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <p>顕彰は、大阪の文化芸術の人材の価値を認め、さらには、府民・市民に知ってもらったことで、大阪の魅力を文化芸術の側面から意識することができる事業として重要です。</p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、制限が多い中であつたが例年どおり賞の贈呈に至り大変よかつた。特に、一般推薦数の増加は評価したい。</p> <p>新しい表現方法が多数生まれているなかで、時代にあつた方に賞を贈呈するには、幅広い世代の評価も必要であろう。今後、関西万博に向けてより賞の認知度があがるとよい。大阪文化の多様性を可視化し、賞の個性を強めるなど大阪ならではの審査基準を検討していくなど、賞の在り方を検討してもよいだろう。</p>
<p>織田作之助賞</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・贈呈式 R4.3.2 綿業会館</li> <li>・受賞者及び受賞作品 <ul style="list-style-type: none"> <li>織田作之助賞：岸 政彦氏「リリアン」</li> <li>織田作之助青春賞：松尾 晴氏「母を迎える」</li> <li>奨励賞：該当なし</li> </ul> </li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <p>・大阪言葉を使い「まち」を豊かに記述した小説家・織田作之助の名前を持つ文学賞はシビックプライドにつながる重要な事業です。</p> <p>青春賞の応募数が増えた点、及び本賞に岸政彦さんの「リリアン」が選出された点はとてもよかつた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化創出と文学風土の豊饒化のために有効な事業であり、是非継続してほしい。</li> <li>・今後のPR方法として、国内に留まらず海外にも目を向け、打ち出しをしていくことも一案である。（例えば国際交流基金アジアセンターへの広報やご案内などを足がかりとするなど。）</li> </ul>
<p>大阪文化芸術創出事業 (文化芸術活動の助成)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期（R3.9～10の実施事業） 210事業に交付決定</li> <li>・第2期（R3.10～11の実施事業） 272事業に交付決定</li> <li>※交付決定後に取消し等の申請があつたため、最終交付事業数とは異なる。</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナで影響を受けた文化芸術の支援に向けた取組みとして評価したい。現場で、本補助制度を活用したとの声も聞いた。引き続き取り組まれない。</li> <li>・一方で、本補助金は、国などの補助制度に比べ、簡単に手続きできる仕組みとしているものの、未だ申請の要件を満たせないなど、支援の手が届いていない層もある。申請時にどのような条件を課し、どのように選考するのが地域における芸術支援制度の趣旨にかなうのか、定期的に見直しを図っていただければと願う。</li> <li>・ジャンルについて言うならば、音楽系を中心に制度の利用が多かつた反面、美術系の申請数が少ないなど偏りがあつた。</li> <li>・支援へのニーズを捉えて、次年度事業として予算規模を2倍に拡充し、申請手続期間や事業対象期間についても長くする方向で検討が進められていることは評価できる。実際に具体化されることを期待している。</li> <li>・今後は、幅広く支援が行き渡る制度となるように申請状況の分析を行うとともに、各芸術支援の関連団体や制度の状況も参照し、より良い支援事業となることを願う。</li> </ul>

<p>大阪文化芸術創出事業（公演機会の創出）</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪文化芸術支援プログラム2021を実施 公演数：66回（事業全体：132公演/2） ※主催・共催プログラム＝110公演、参加プログラム＝22公演） 鑑賞者数：285,621人</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響を受けた文化芸術の支援に向けた取組みとして評価したい。</li> <li>・地域連携で工夫がみられるものの、プログラム全体を通じて目新しさが無く、ひと昔前の事業という印象を受ける。「分かりやすさ」や「親しみやすさ」に、大阪が発信する芸術文化の取組みとして世界的に評価されるような先進性や社会性を加えれば、関西圏を越えて大阪に相応しいだろう。同時に、時代のニーズに応じたコンテンツの創出や人材育成も行えることになるので、若いプロデューサーの起用など将来展望も見据えた発想で取り組んでほしい。</li> <li>・なお、新型コロナ禍において急速に発展しているデジタル表現が見受けられないことは非常に残念。もっと、コロナ禍ならではのデジタルコンテンツや、オンライン手法を活用した展開が欲しいところであった。</li> <li>・事業の企画段階から、行政、委託事業者だけでなく、各分野の専門家や地域の人材など多くの関係者が参画する仕組みを構築するべく、アートマネジメントの創意工夫が必要であり、大きな視点から機軸の設置なども考えてほしい。</li> </ul>
<p>芸術創造館管理運営</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇練習室稼働率73.7% 音楽練習室55.7%（1月末現在）</li> <li>・自主事業 芸創テク（インターンシップ）6回、芸創サロン 25件、芸創講座（専門講座）、スタジオライブ、DOORS（ワークショップフェスティバル）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止</li> <li>・次期指定管理者の決定</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市立芸術創造館は大阪で盛んな演劇や音楽のインキュベーション施設として、アマチュアからプロまでが利用する文化施設である。芸術創造館が活気づくことは、大阪全体の文化芸術関係者への活気の基礎となる。したがって、新型コロナウイルス感染症拡大が続く中でも、対策を適切に行なった上で安全・安心に施設を利用できるように取り組んだことを評価する。長年、館に愛着を持って管理してきた現在の指定管理者が柔軟かつ細やかに対応を重ねてきたからできたことであろう。現指定管理者チームの努力をねぎらいたい。</li> <li>・指定管理予定者の選定について、昨年に選定したにも関わらず1年で終了したことは非常に残念である。また公募においても当初は応募者がなく芸術創造館の存在意義を、市民やアーティスト、文化団体側がどのように考えているのかの現場感覚が充分であったのか大変変わしいと感じた。一方で再公募の結果、指定管理予定者を選定でき、安心した。今年度のこの経過を今後引き継ぎ、次年度を再スタート年とし、新指定管理者による館運営へ円滑に移行できるように、現指定管理者からの丁寧な引継ぎに努めていただきたい。</li> <li>・指定管理者へのヒアリングや近隣の文化施設の事例を研究し、中長期の改修計画の策定を検討して欲しい。計画的に取り組むことで、トータルコストの低減につながることを期待したい。</li> <li>・指定管理者制度は、文化施設の人材育成において非常に不安定である。大阪の芸術文化を創造する人材や支える人材の育成・支援において、よりよい文化施設の制度設計づくりを、時間がかかってもよいので、期待している。</li> </ul>
<p>芸術創造館ショーケース事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募団体数 36団体 選定団体数 10団体</li> <li>・ワークショップ参加者数 延べ18名</li> <li>・記録映像配信 3月22日～</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続く中、昨年度に引き続き、舞台芸術表現を育むこの事業が実施されたことは非常に評価できる。</li> <li>・大分県舞台博覧会では、個性の違う団体が選定されたことで、バラエティに富んだ公演となっており、多様な表現形態がある大阪らしさを打ち出したといえる。一方で本事業の施策の位置づけを考えた場合、人材育成の視点にたった方針が必要と考える。「自律的な芸術活動を継続」するには、昨年度及び今年度の公演団体のアフターフォローが必要だろう。</li> <li>・3つの区で出演団体が講師となったワークショップを実施されたことは、スキルアップにつながることを期待できるので評価できる。ワークショップの実施で終わるのではなく、アンケート結果などを踏まえた専門家によるアドバイスなどフィードバックを期待したい。</li> <li>・来年度以降、継続し拡充するのなら、これまでと同様に選定する団体に加えて、スタートアップ支援やリスタート支援など、きめ細やかなプログラム展開も可能となるだろう。管理者は変わるが、今後も現場感覚を活かせる芸術創造館との連携を重視し企画を行うと良い。</li> </ul>

## ②上方伝統芸能等の継承・発展

事業名	実績・評価
<p>文楽を中心とした古典芸能振興事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文楽公演「中之島文楽」（R3.10.1～2大阪市中央公会堂）554人</li> <li>・公式YouTubeチャンネル 再生回数：約11,136回（1末時点）</li> <li>・フリーペーパーの店舗設置 5,000部</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の長期化で、実演芸術の普及が困難な中においても、新たな鑑賞者層獲得のため、YouTubeなど媒体を充実させたり、フリーペーパーの企画内容を新規展開するなど、創意工夫している点が評価できる。フリーペーパーの店舗設置は、文楽の存在を公演チラシとは異なる形で街なかで可視化でき、オンライン化・ペーパーレス化の昨今においても意義のある取組みであると考えられる。表紙デザインなど、ビジュアルの打ち出し方を引き続き工夫されることを期待したい。</li> <li>・舞台上での芸員の撮影タイムからSNSへの投稿など、本公演ではなかなかできないことを取り入れている点も「中之島文楽」ならではの。中央公会堂玄関前に掲示したポスター前でも意図せず記念撮影の行列ができていたとのことだが、観劇だけでなく、観劇する自分も撮影し発信して楽しむという時流に対して、今後、記念撮影スポットを充実するなどの工夫があっても良いのではないかと。</li> </ul>



<p>伝統芸能を活用した大阪の魅力開発促進事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデルプログラムの実施（6回・アンケート等のサンプル数：697名）</li> <li>旅行事業者・有識者等で構成される関係者会議の実施（2回）</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業「伝統芸能を活用した大阪の魅力開発促進事業」は観光と伝統芸能をつなぐ内容であったが、4年間を通して、積極的な大阪市の観光行政との連携を確認することができなかったことが大変残念である。縦割りでない、実質的な推進体制が築けなかったことはなぜだったのか検証してこの事業を終了して欲しい。観光と親和性のある芸能事業も市内に散見されたが、それらがこの事業と戦略的な接点を持つようなことが十分であったか懸念が残る。</li> <li>なお事業運営においては①コロナ禍での実施には困難なこともあっただろうが、検証の方法を工夫しながらアフターコロナへ向けて4年計画の事業を全て完了することができた、②実施においては、会場も一緒に、つまり会場とコラボレーションすることが重要であるとの気づきを得た（今回はホテルを会場とし、ビジターのアクセスや会場内の導線が、これまでよりよかった）との2点を評価したい。</li> <li>当初からの目標である、民間事業者主導による実施という点において、採算性や継続性の観点では、大阪市が関わったことが、どう効果的であったのか、そもそもの事業立ち上げ時の計画の方向性も含め検証しなおして欲しい。そこまですてはじめて、今後の展開に期待が持てる。ぜひ大阪の多彩な伝統芸能が観光においても魅力が発揮される、行政の強みを生かし繋げていって欲しい。</li> </ul>
<p>大阪市立美術館の魅力向上</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模改修工事実施設計が完了</li> <li>収蔵庫に保管されている美術品の移転先・時期等の調整が完了</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工事実施設計において、美術館へのアクセスのバリアフリー化や隣接する慶沢園との一体活用を図ったほか、カフェ新設する等、無料エリアを設けることで美術館の機能向上・魅力向上が図れる設計ができたことは評価できる。</li> <li>今後、改修工事の実施に向け、これまでの市立美術館の利用者等にも改修して良かったと思ってもらえるよう、美術館の改修内容等を事前に周知する等、理解を得ながら取り組んでほしい。</li> <li>改修工事後のリニューアルオープンに向け、機運を熟成する取り組みを実施していくべきだろう。例えば、横浜美術館改修工事中の仮囲いを利用した若手アーティスト紹介「Wall Project」などを参考になる。大阪においては収蔵品の紹介であってもよい。</li> </ul>

### ③芸術文化による大阪の魅力向上

事業名	実績・評価
<p>大阪クラシック</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催期間：R3.9.12～9.18</li> <li>主な会場：大阪市中央公会堂・フェスティバルホール・Zepp Namba及びオンライン配信</li> <li>出演楽団：大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団 Osaka Shion Wind Orchestra</li> <li>公演数：43公演</li> <li>来場者数（合計）：60,183人（YouTube視聴者数含む）</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在阪の4大オーケストラと大阪市音楽団（Shion）のメンバーが出演するクラシックフェスティバルで、一流のアーティストによる生演奏を、都心のオフィス街で気軽に親しみやすい形態で展開してきた点が特徴である。コロナ感染拡大の長期化によって今年度も無料公演の市中開催が困難となり、大阪クラシックの特色を街なかで可視化しにくい状況が続いているが、昨年度に続いて動画収録・配信を行い、海外も含む広い地域から視聴者を得ており、通常公演とは異なる層への訴求ができていたことは評価できる。</li> <li>有料公演の会場では感染予防対策にも十分配慮され、職員によってスムーズに運営されていたことが印象的だった。この2年間、ボランティア募集ができない状況が続くが、今後公演数が増える（以前の規模に戻る）場合はスタッフの増強について対応が必要になると考えられる。例えば大学との連携やインターンシップの受け入れなどによって、継続的な人材育成のしくみを作ることもできるのではないだろうか。</li> <li>楽団員が自主的に各公演の曲目や編成を組み立てており、数年間をかけて準備する例もあるなど、大阪クラシックの存在が楽団員にとっても励みや挑戦の機会になっていると聞く。未就学児が入場できる公演があるのも良い点である。今後も、参加者の層を広げる取り組みを継続していかなければならないことを願う。</li> </ul>
<p>アジア映画祭</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア映画祭（開催期間：R4.3.10～3.20）</li> <li>上映作品数：76作品（31の国と地域の作品） オンライン上映：10作品</li> <li>開催会場：梅田ブルクア、ABCホール、シネ・リープル梅田、国立国際美術館、オンライン</li> <li>オンライン上映やシンポジウム、ワークショップ、ポスター展を開催</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関西万博において国際的な視野が必要とされている。アジア映画祭は17年の歴史を重ねる中で、上映作品が海外の国際映画祭でも評価されるなど、大阪発の国際映画祭として世界の映画関係者の認知度が高まっており、大阪のシビックプライドを支える文化事業である。</li> <li>今年度、文化庁委託事業「令和3年度日本文化海外発信推進事業（国際映画祭実施推進事業）」の採択を受け、事業実施者としての実力と質の高さも証明されている。</li> <li>また、アジア映画をテーマとしており、古代より現在までアジアと交流が深い大阪との親和性が高い。今後は、このような社会包括の側面も強みとしていってほしい。</li> </ul>

現代芸術振興事業 (ブレイカープロジェクト)	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通年事業 旧今宮小学校「作業場」・「西成・子どもオーケストラ」</li> <li>・展覧会「Dear」及び「来日」の開催</li> <li>・地域コーディネーターの発掘育成など</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長年当該地域に根差した活動をおこなうことで、現代芸術の領域で全国的に高い評価を得てきている。その成果をより戦略的に市民に還元するために次年度より西成区への事業移管したことは評価に値する。</li> <li>・西成区を拠点とした事業を継続する中で、ジャガビーパーク事業とのコラボレーションや今宮工科高校との連携など、今年度は着実に地域との関係性を構築し、効果的に地域に根付いた芸術活動を展開している。</li> <li>・上記の活動によって、もと今宮小学校での活動に参加する地域住民の数も増加している。今後も当該地域において活動を積み重ねることで、将来的にコミュニティアートセンター的機能が明確に位置付けられて、よりいっそう区民の文化芸術環境が向上するとともに、現代芸術としての高い評価を得ることを期待する。</li> </ul>
---------------------------	--

## 施策の方向性C「文化が社会を形成する」

### ①芸術文化の有する地域力向上や社会包摂の機能を生かした共生への取組みの促進

事業名	実績・評価
地域文化事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淀川区『「1千人の第九」コンサート』ほか5区で開催 ※3区については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化芸術活動をより住民に寄り添い、活性化させる事業である。</li> <li>・コロナ禍において、オンライン等の活動が増加しているが、直接芸術活動にふれる機会は重要だ。そのためにこの事業がよりよく展開していくことを望む。</li> <li>・各活動の質が向上する戦略があってもよい。その手始めとして、活動に関わっている人々がどのような人々なのか、どう思っているのかをアンケート調査したり、事業の事例報告会をするなど各区の個別の事業を市として包括的に捉える機会があってもよい。</li> </ul>
文学碑記念の集い 文学碑維持管理	<p>【文学碑記念の集い事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第41回文学碑記念の集い」(R3.10.16 太平寺)</li> <li>・参加者数：84人</li> <li>・出演者：玉岡かおる(作家)・中尾周統(俳優)</li> </ul> <p>【文学碑維持管理事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央区内の(宇野 浩二碑、薄田 泣菫碑)の2基について現状確認及び必要な整備を実施</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と言葉を結ぶ文学碑ネットワークを可視化させる事業である。</li> <li>・アフターコロナにむけて、多様な層の参加を促進するため、出演者によるPRの工夫や広報媒体の見直しなどを検討してはどうか。</li> <li>・文学碑をより身近に感じてもらい、地域文化の誇りと市民が捉えることを、さらに促すためにも、プログラム内容が文学とゆかりがあるよう工夫されたことは高く評価したい。また出演者にとっては、文学と演劇のジャンル間、また世代間での交流にもつながったことも、プログラム内容をより完成度の高いものにするための、出演者側のモチベーションにつながったようであり評価できる。今後もプログラムは、文学と親和性のあることを前提に構成すると効果的である。</li> <li>・「ことば」と地域を結びつける文化資源として文学碑は重要である。地域の方から愛着を持ってもらったり、文豪関連アニメ等のブームで注目されるなど多様な活用がなされており、今後も地域資源として位置づけ大切に維持管理してほしい。可能であれば、今の時代に添った形で、新たな作家・作品を顕彰する石碑の設置も検討してほしい。</li> </ul>
クラシック音楽 普及促進事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にしなりクラシック～オペラの音楽でめぐる世界旅行～」 (R4.3.12 大阪フィルハーモニー会館 来場者数(合計)153人) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、収容率の50%で開催(155席)</li> <li>・大阪フィルハーモニー会館 市民利用割合18%(2月末現在)</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大が長期化する中で、感染防止対策を図りながら公演を実現されたことを評価したい。客席半減とはいえ、チケットの売れ行きも好評だったと伺っている。この事業を通して、西成区民に地域への誇りと愛着、そしてオーケストラへの親しみを感じてもらえることを期待したい。</li> <li>・大フィル会館の存在や貸館制度については、まだ十分に認識されていない側面があると見られる。例えば、オーケストラ(大阪フィルハーモニー交響楽団)の活動拠点であることや、楽団の日常風景、貸館使用に関する情報(設備やジャンル、時間帯や料金など)をコンパクトかつ魅力的に伝えられるしくみがあると良い。そのためにも、区との連携や区民だけでなく、ホームページの活用などが期待される。大フィル会館はアクセスにも優れており、実演団体等の潜在的なニーズはあるものと考えられる。</li> </ul>

## ②文化財や史跡の保存・活用・継承

事業名	実績・評価
中央公会堂管理運営	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会室等の利用率 34.7%（2月末時点）</li> <li>・全国的な又は国際的な学会等大阪の都市魅力の発信に資する催しの誘致件数 5件</li> <li>・中之島地区の他施設との連携によるイベント（科学館：99年目のアインシュタイン、中之島図書館：ガイドツアーコラボ）を積極的実施により、中之島エリア一帯の賑わいに貢献。</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公会堂は、市民とともに育んできた近代大阪のシンボルです。重要文化財として建物をよりよく保存継承するとともに、市民の文化活動とともにある現役の公立文化施設として、存在そのものがシビックプライドになるよう、引き続き管理運営してほしい。</li> <li>・そのうえで新型コロナウイルス感染症拡大への対策が求められた安全な施設運営に加えて、ウィズコロナからアフターコロナへも引き継げる以下の2点の取り組みを特に評価したい。</li> </ul> <p>①ICTを活用した「利用しやすさ」への取り組み。具体的には、現地に来なくとも詳細な寸法等を計測できる3Dウォークスルーの導入、WiFi環境の整備等である。</p> <p>②地域と協働する文化施設としての取り組み。具体的には、中之島地区の他施設との連携によるイベントを積極的に開催したこと。</p> <p>運営においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で苦慮することが多い2年間であっただろう。しかしながら、上記2点に取り組んだことで、アフターコロナの施設運営について一歩踏み出せただろうと考える。今後は、国内外他都市の近代建築を活用した文化施設の先進的な取り組みや研究事例も参照しながら、さらに市民に愛され誇りとされるような文化施設となることを期待する。</p>
史跡難波宮跡維持管理	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一般開放のための整備（東側北ブロック）を実施</li> </ul> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、公園の重要性は注目されている。そのための整備計画に基づき、安全に行われたことを評価したい。</li> <li>・近隣住民との連携も取れているとのことだが、今後は認知度の向上も兼ねた公園整備があっても良いだろう。</li> <li>・地域住民との連携により重要な気づき生まれ、課題の発見に繋がることもある。</li> </ul>